

特集

# 風の優駿

「野馬から競走馬に至る歴史の風」

野馬特養とゆく「競走馬の上る」と「歴史散歩」

牧歌的な情緒を今に残す、御料・宮内地区の一角  
抜けるような青空と深い緑の木々に囲まれ  
モダンな建物が静かにたたずんでいる

ここには、多くの競馬ファンに夢とロマンを与えた  
2頭の名馬が、次の世代にその血脈を伝えるべく  
新たな馬生を営んでいる

富里町は「競走馬のふるさと」と言われるように  
現在18の牧場が点在し  
何百年という時代をさかのぼり

馬とかかわりの深い風景を現在に伝えている  
時はまさに、天高く馬肥ゆる秋

富里の「馬の歴史」をふり返る旅へと出かけてみたい……



# 第一編

歴史への入り口の舞台は、まず  
社団法人日本軽種馬協会「下総種馬場」から始まります  
特集の案内役は、街角特派員の小林靖子さん  
馬の歴史に興味を持った小林さんは  
かねがね気になっていたという  
ここ下総種馬場の見学へ出発しました

## 下総種馬場に起つ

心地よい風に誘われて…

「トンガリ帽子」

富里の南西方面、南小学校から約2kmほど  
芝山町に向かう通りを進んで行く。

この地域はまちの中でも北部と違って畑が  
多い。地名も「御料・宮内」と呼ばれ、明治  
初期につくられた宮内庁の御料牧場が存在し  
ていたということだ。

地図を見ると、扶桑、鈴木、若草と呼ばれ  
る「牧場」があることに気づく。

そして、その若草牧場近くで足を止めると、  
緑と白が鮮やかな、可愛らしいトンガリ帽子  
の建物が見える。それは、あまりにモダンな  
作りで、一見すると教会?のように思えてし  
まう。「中をのぞいて見たい」、そんな思いに

場長 駒野 道夫さん

小林 靖子さん（南七栄）

【コメント】

こんにちは、小林靖子です。今回のテーマ「馬」は、  
通学途中の牧場でよく見かけたので、とても興味があり  
ました。また、三里塚御料牧場記念館や藤崎牧士史  
料館には「馬と富里の歴史」を、ひも解く多くのカギ  
がありそうです。牧と牧士、そして御料牧場から近代  
競馬へと、馬と共に生きる人々の、さまざまな思いを  
お届けしたいと思います。

沢田 泰裕さん

歴史への扉を叩く

駆られてしまうほど魅力的な建物。心地よい  
秋風がそつと吹き、背を押されるように、私  
はその建物に近づいてみた。  
建物には、英語でJBB A STALLI  
ONS（スタリオンズ）と書かれ、大きく枝  
をはったケヤキの木と、モダンな建物がきれ  
いに整備された敷地の印象から、「ここが、  
本当に富里なの？」と錯覚してしまうほどで  
あった。  
無断で立ち入るのは失礼だと思い、私は、  
人の気配がする事務所のドアをノックした。



# 関東で唯一の種馬場

全国に六つある中の一つ

「駒」の場長さん

ドアをノックをすると、白衣を着た男性がひよっと顔をのぞかせた。「すみません。こちらがあまりにもきれいだったので、少し見学をさせていただけこうと思って……」

外からは教会のように見えたのですが、牧場か何かなのですか？

少し驚いた私は、なにやらトンチンカンなことを口走ってしまったかもしれない。

「……まあ、キョウカイはキョウカイですが、ここは日本軽種馬協会の下総種馬場しんそうしゅばばうといって、競走馬の種牡馬を繁殖はんしゅくしてるところなんですよ。

あそこにも書かれています。スバリオンとは英語で「種牡馬」という意味です」(なるほど、さっきの意味が……)

「本来、見学には事前に連絡をいただくと助かりますが、せっかくですから……どうぞ」

見た目の怖さ？とは違い、やさしい口調の男性は、この場長であり獣医師の駒野道夫さん。

馬に携ともなわる人の名字が「駒」とつくことに、またまた、なるほど？と思ってしまった。

場内左の柵には、黒い馬が一頭。厩舎うしやの中からは馬のいななきや、ひづめの音が聞こえた。

見学の前に事務所の中へ案内され、協会のパンフレットや種牡馬しゅしゅばのカタログなど、思いがけないお土産みやげを頂いてしまった。それに、この歴史も説明までしてくださった。

## 【下総種馬場・沿革】

駒野場長のお話では、現在のこの下総種馬場の前身は三里塚種馬場さんりづかしゅばばうと言ひ、1961年(昭和36年)に、宮内庁の下総御料牧場の開放地として成田市天浪てんなみに建設されたことが始まりだ。日本のサラブレッドの初期の生産の中核をなしたのが、下総御料牧場であり、時代は明治8年にまでさかのぼるという。

また、昭和37年からゲイタイム号やロイヤルチャレンジャー号を繁殖した。後者の種牡馬は、天皇賞・有馬記念を2回制覇したスピードシンボリスピードシンボリを輩出するなど、数々の代表

産駒さんこは、次の世代へとその血統を今に伝えている……

その後、成田空港建設によって、富里町大字御料に移転し、昭和45年から下総種馬場として種付業務を開始。全国の生産者の繁殖牝馬はんしゅくひんばを対象に、種付けや牝馬の繁殖障害の治療なども行っている。

日本軽種馬協会の種馬場は全国で思いのほか少なく、北海道の静内、胆振いづみ、青森県七戸町、栃木県那須町なす(注)、鹿児島県大崎町、そして、富里町と6つしかないのだ。

意外な発見に思わず、なぜか誇らしい気持ちになってしまった。

風の優駿

～野馬から競走馬に至る歴史の風～



(注) 那須種馬場は、老齢種牡馬の管理で、現在は種付け事業は行われていない。



## 名馬探訪

### Part 1

## ロイヤルスキー

栗毛 1974年生まれ（1979年12月米国より輸入）

血統…父ラジャババ 母カズオーニジンスキー

母の父インボルヴメント

主な競走成績（米国14戦8勝）

ローレルフューチャリティ（GⅠ・1,700m）1着

レムスンS（GⅡ・1,800m）1着

ヘリティジS（GⅢ・1,700m）1着

※1978年米国で供用、1983・85年に3歳リーディングサイアーランキング第2位、主な産駒はアグネスフローラ、スキーゴーグル、スノウブラウ、アサカサイレント、ワカオライデン、ダイナエイコーン、ベルベットグローブ、プリンセススキーなど多数。スピード豊かな産駒はグレードレースでコンスタントな活躍を見せる。今年の種付頭数は17頭。



## イシノサンデー

栗毛 1993年生まれ（静内産）

血統…父サンデーサイレンス 母ジェフォリー

母の父アリダー

主な競走成績（中央・地方22戦6勝）

皐月賞（GⅠ・2,000m）1着

ダービーグランプリ（GⅠ・2,000m）1着

京都金杯（GⅢ・2,000m）1着

京都記念（GⅡ・2,200m）2着

産経大阪杯（GⅡ・2,000m）3着

※1999年に種牡馬として供用開始。今年の種付頭数は66頭。初産駒は来年2月頃に誕生の予定。大種牡馬サンデーサイレンスの血統で、GⅠ勝ち馬が北海道以外で供用されたのは、ここが初めて。関係者の多くの期待を一身に担っている。

# 栄光の向こうに

## 未来へと続く血脈

### 「サンデーとロイヤル」

動物を飼育するのは大変なことだ。まして馬となると、話は容易なことではない。

ここでは駒野場長以下、三浦正二さん、沢田泰裕さんの二人の厩務員が種牡馬の世話をしている。

夏期は、朝の5時頃から、冬期でも6時近くからの仕事だ。飼料をやり、放牧、馬体の手入れ、馬房の掃除など、デリケートな馬への配慮も欠かせない。

そんな、人間の苦勞を知ってか知らずか、馬房には2頭の種牡馬がたずんでいた。

期待の新星・イシノサンデー  
安定と実績の・ロイヤルスキー

2頭が、ここで悠然と第2の馬生を謳歌しているのだ。

馬体はピカピカと輝き、筋肉のたくましさからは、現役時代、数々の勝ち星をあげたであろうことは、素人の私でさえも、容易に見て取れるほどきれいな馬だ。

厩務員さんが、いかに丹念に愛情を注いでいるかも、その毛並みの良さから感じることができる。

種牡馬の種付期間は、毎年3月から7月にかけて。ゴールデンウィークの頃にはそのピークに達する。ここで、ご注意くださいたいのは、

これらの種付は、一般の人は見学ができないということ。ただ、シーズンオフに馬に会いにくることは、いっように構わないとのことである。もちろん、事前連絡とマナーを守っての話である。

イシノサンデーは今年66頭、ロイヤルスキーは17頭の種付をした。

馬の妊娠期間は11か月なので、来年の春先に、かわいい仔馬が誕生する予定だ。彼らの二世も、あと数か月でこの世に生を受けるのだ。

毎年8,000頭を超える馬が誕生するが、その中のほんの一握りしか、輝ける栄光をつかむことはできないという厳しさがある。

目標は「GⅠ」と呼ばれる、一流の優駿が集って行われるグレードレースで優勝すること。

走るために生まれてきたサラブレッドは、人間に馬匹改良され、その血統は300年近い歴史までさかのぼるとも言われている。

そして、ここに繋養されている、イシノサンデーやロイヤルスキーは、熱きホースマンたちによって現役時代、その勝者となり今日の地位を築きあげてきた。

しかし、話しはここで終わるわけではない。

栄光の向こうには、種牡馬となつた今も、今度は子孫繁栄のレースを静かに競っているのだ。





【種付場内部：ウッドチップ（木片）が敷き詰められ、  
数々の医療器具を整えて、安全な種付事業を行っている】

日本軽種馬協会は、競走能力の高いサラブレッドを競馬の舞台に送りだすために優秀な種牡馬や、より優れた内国産馬の生産・育成をめざしています。各地域では共同利用できる初期調教のための育成場や、生産環境の整備への取り組み、また、セリ市の振興や繁殖牝馬の導入、流通システムにも力を注いでいます。

ここ、下総種馬場も昭和45年の移転当初から、能力の高い種牡馬を供用してきました。

現在、2頭の種牡馬がおり、ロイヤルスキーは26歳という高齢にもかかわらず、生産者の間では根強い人気があります。

また、昨年11月に配置されたイシノサンデーは、「リーディングサイアー産駒（注）で、G1勝馬の内国

## Interview #1

### 強い馬づくりこそ生産者の夢

その夢が叶えられるのも、私たちの夢でもあります。



日本軽種馬協会 下総種馬場  
場長 駒野 道夫さん

産種牡馬をぜひ供用して欲しい」との地元のプロducerの強い要望で、実績が期待できるサンデーサイレンス産駒が選ばれました。北海道以外でサンデーサイレンス産駒のG1勝馬が、繋養されたのはここが初めてです。

千葉・茨城はもとより関東一円、東北、北海道、鹿児島からも種付にきました。

初産駒は来年の2月頃から誕生す

## 人と馬が育む歴史と夢

### 太古の昔に思いを馳せて

「サラブレッド」  
この見学や場長の話の中で印象的な言葉があった。それは、サラブレッドの語源はThorough（徹底的に）、bred（改良されたもの）という意味を持つということだ。

しかし、「馬」が徹底した改良を余儀なくされたのは、それなりの

理由があったからであろう。

例えば、「美しさ」という観点であったり、人の「より早く走りたい」という夢であったり。

また、人はその昔に野生の馬を飼いならし、それを軍馬として用い、権力を手に入れる手段として利用してきた歴史がある。

しかし、そうした歴史は、何も遠い異国の地でのできごとだけではな

る予定で、町内でも3月に生まれる牧場があります。

千葉・茨城の牧場形態も、以前と比べると大きく変わり、生産牧場のほとんどが、今では繁殖・生産部門を北海道の分場に移し、美浦トレーニングセンターや、南関東の競馬場が近いことで、生産よりも育成や調教、現役馬の休養の場としての需要が高くなっています。

富里町も古くから佐倉牧と牧士、下総御料牧場といった、馬と深いかわりのある地域がらを生かし、もつと馬に親しむ機会を町でも持つと良いのではないのでしょうか。

それになんと言っても、生産に携わっている人の夢は、強い馬づくりの一言につきまします。生産者の夢が叶えられるのもまた、私たちの夢でもあるのです。

（注）リーディングサイアー：レースに出場した産駒の全取得賞金が、一番多かった種牡馬をいう。



## 風の優駿

～野馬から競走馬に至る歴史の風～

いようである。

駒野場長が、私に最後に教えてくれたこと。それは……

富里をはじめとする下総の地には、戦国・江戸時代に「牧」がつくられ、「牧士」という馬追い人がいたということだ。

「人と馬が育む」歴史は、ここ富里の地にも息づいていた。種馬場を後に、一路、久能へ向かった。